

012110851 **Image available**

WPI Acc No: 1998-527763/199845

XRPX Acc No: N98-412796

Image transmission method for simultaneous display - involves decimating signal corresponding to image displayed in sub screen

Patent Assignee: CANON KK (CANO)

Number of Countries: 001 Number of Patents: 001

Patent Family:

Patent No	Kind	Date	Applicat No	Kind	Date	Week
JP 10234020	A	19980902	JP 9737642	A	19970221	199845 B

Priority Applications (No Type Date): JP 9737642 A 19970221

Patent Details:

Patent No	Kind	Lan	Pg	Main IPC	Filing Notes
JP 10234020	A	12		H04N-007/12	

Abstract (Basic): JP 10234020 A

The method involves transmitting image signals from several image signal supply units which are displayed in a picture-in- picture format in the receiver side. A signal processor (103A,104B) comprise decimation units, for decimating the signal corresponding to the image displayed in a sub screen.

ADVANTAGE - Improves efficiency of transmission line. Reduces electric power during transmission.

Dwg.1/9

Title Terms: IMAGE; TRANSMISSION; METHOD; SIMULTANEOUS; DISPLAY; SIGNAL; CORRESPOND; IMAGE; DISPLAY; SUB; SCREEN

Index Terms/Additional Words: PICTURE; IN; PICTURE; DISPLAY

Derwent Class: W02; W03; W04

International Patent Class (Main): H04N-007/12

International Patent Class (Additional): H04N-005/265; H04N-005/45

File Segment: EPI

Manual Codes (EPI/S-X): W02-F07D; W03-A13B; W04-N05C5; W04-P01A7

THIS PAGE BLANK (USPTO)

(10)日本国特許庁 (JP)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平10-243020

(43)公開日 平成10年(1998)9月11日

(51)Int.Cl.
H 04 L 12/56
G 06 F 13/00
H 04 L 12/28

識別記号

357

F I
H 04 L 11/20
G 06 F 13/00
H 04 L 11/00

102Z

357C

310D

審査請求 未請求 請求項の数8 OL (全10頁)

(21)出願番号 特願平10-28328
(22)出願日 平成10年(1998)2月10日
(31)優先権主張番号 797129
(32)優先日 1997年2月10日
(33)優先権主張国 米国(US)

(71)出願人 591030868
コンパック・コンピューター・コーポレーション
COMPAQ COMPUTER CORPORATION
アメリカ合衆国テキサス州77070, ヒューストン, ステイト・ハイウェイ 249,
20555
(72)発明者 ジェームズ・エフ・マカーティ
アメリカ合衆国テキサス州77379, スプリング, ワンズワース・ドライブ 9227
(74)代理人 弁理士 社本一夫(外5名)

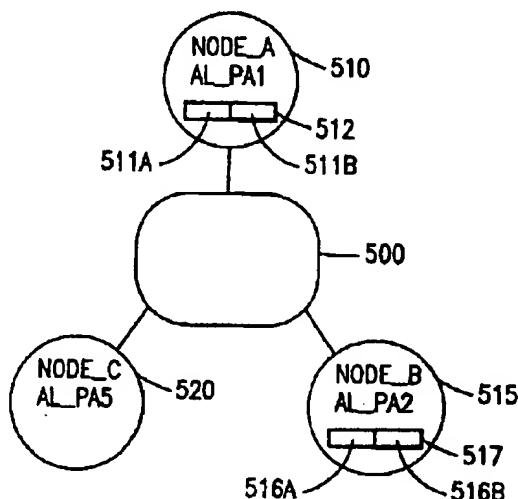
最終頁に続く

(54)【発明の名称】 ファイバ・チャネル環境において多数のイニシエータを制御するシステムおよび方法

(57)【要約】

【課題】 コンピュータ・システムにおいてファイバ・チャネル(FC)通信環境を管理して、伝送中段が生じないようにする。

【解決手段】 コンピュータ・システムはFCプロトコルと互換性のある複数のFCデバイス510, 515, 520を備え、該デバイスの内少なくとも2つはイニシエータ510, 515であり、他のデバイスはターゲット(宛先ノード)520である。イニシエータ及びターゲットは調停されたループ500のFC環境を構成し、またイニシエータは、記憶アレイである未決リンク・サービス・アレイ512、517を備えている。イニシエータは、該アレイに他のイニシエータ又はターゲットに送るための要求フレームに関連するタイプ情報を記憶し、その後、該要求フレームを送信する。受信側では要求フレームに応答して、応答フレームのタイプ情報を記憶することなく、応答フレームを送出する。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 複数のファイバ・チャネル(FC)・デバイスを含み、該FCデバイスの内少なくとも2つはイニシエータであるファイバ・チャネル通信環境において、該ファイバ・チャネル通信環境を管理しつつ制御する方法であって、

要求フレームに関連するタイプ情報要素を記憶した後に、前記少なくとも2つのイニシエータの各々から、前記ファイバ・チャネル・デバイスの各々に前記要求フレームを送信するステップと、受信した要求フレームに応答して、応答フレームのタイプ情報要素を記憶することなく、前記少なくとも2つのイニシエータの各々から、前記応答フレームを送出するステップとから成ることを特徴とする方法。

【請求項2】 請求項1記載の方法において、該方法は更に、仲裁ループに関連するループ初期化プロセスを完了するステップを含むことを特徴とする方法。

【請求項3】 請求項1記載の方法において、該方法は更に、前記要求フレームに応答して受信した応答フレームに関連するペイロードの内容を操作することなく、前記少なくとも2つのイニシエータの各々によって、前記応答フレームを処理するステップを含むことを特徴とする方法。

【請求項4】 複数のファイバ・チャネル(FC)・デバイスを含み、該ファイバ・チャネル・デバイスの内少なくとも2つがイニシエータであるファイバ・チャネル通信環境において、該ファイバ・チャネル通信環境を管理しつつ制御するシステムであって、

要求フレームに関連するタイプ情報要素を記憶した後に、前記少なくとも2つのイニシエータの各々から、前記ファイバ・チャネル・デバイスの各々に前記要求フレームを送信する手段と、

受信した要求フレームに応答して、応答フレームのタイプ情報要素を記憶することなく、前記少なくとも2つのイニシエータの各々から、前記応答フレームを送出する手段とから成ることを特徴とするシステム。

【請求項5】 請求項4記載のシステムにおいて、該システムは更に、仲裁ループを初期化するループ初期化手段を備えていることを特徴とするシステム。

【請求項6】 請求項4記載のシステムにおいて、該システムは更に、前記要求フレームに応答して受信した応答フレームに関連するペイロードの内容を操作することなく、前記受信した応答フレームを処理する手段を備えていることを特徴とするシステム。

【請求項7】 少なくとも2つのイニシエータを含む仲裁ループ・トポロジを処理する方法であって、

ループ初期化ステップを実行するステップと、前記少なくとも2つのイニシエータの各々によって送出される要求フレームに関連するタイプ情報要素を記憶するステップと、

前記少なくとも2つのイニシエータの各々から要求フレームを送出するステップと、前記少なくとも2つのイニシエータの各々から応答フレームを送出するステップであって、前記要求フレームに応答して前記応答フレームを送出するステップとから成ることを特徴とする方法。

【請求項8】 請求項7記載の方法において、該方法は更に、前記要求フレームに応答して受信した応答フレームに関連するペイロードの内容を操作せずに、前記少なくとも2つのイニシエータの各々によって、前記応答フレームを処理するステップを含むことを特徴とする方法。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、チャネルおよびネットワーク通信システム並びにチャネルおよびネットワーク通信方法に関し、更に特定すれば、ファイバ・チャネル環境において多数のイニシエータ(initiator)を制御するシステムおよび方法に関するものである。

【0002】

【従来の技術】デバイス通信には、チャネルおよびネットワークという2種類のプロトコルがある。チャネルは、マスター・ホスト・コンピュータおよびスレーブ周辺デバイス間において、一旦データ通信が開始したなら、ソフトウェアのオーバーヘッドがほとんどなく比較的短い距離において超高速で大量のデータを搬送するように設計されている。チャネルは、通常、ハードウェア集約的であり、マスターおよびスレーブ間に直接接続即ち切替式二点間接続を提供する。一方、ネットワークは、中距離ないし長距離において複数のホストおよびシステム資源を共有する多くのユーザーにインターフェースし、多くのトランザクションに対応するように設計されている。ネットワークに関しては、高い接続性が得られる限り、通常オーバーヘッドの増大は容認することができるものである。

【0003】ファイバ・チャネル・プロトコル(「FCP : Fiber Channel Protocol」)は、これら2つの異種通信方法の最良点を組み合わせて、単一のオープン・システム・インターフェース状(OSI状)のスタック・アーキテクチャとする、新世代のプロトコルである。本質的に、ファイバ・チャネル(「FC : Fiber Channel」)は、マルチ・トポロジ(multi-topology)の多層スタックであり、物理的搬送特性を制御する下位レイヤ・プロトコル(「LLP : lower-layer-protocol」)、およびオペレーティング・システムと互換性のある上位ソフトウェア構造との間でLLP通信のマッピングを行う上位レイヤ・プロトコル(「ULP : upper-layer-protocol」)を備えている。これらのULPは、チャネル・プロトコルおよびネットワーク・プロトコルの双方を含み、例えば、インテリジェント周辺インターフェース

(IPI : Intelligent Peripheral Interface)、スマート・コンピュータ・システム・インターフェース（「SCSI : Small Computer System Interface」）、およびインターネット・プロトコル（「IP : Internet Protocol」）のようなプロトコルを含んでいる。

【0004】チャネル通信またはネットワーク通信のいずれかに専与するデバイスは、「イニシエータ」または「ターゲット」、あるいはこれらの双方として分類されることは公知である。いくつかの特定の機能がイニシエータまたはターゲットのいずれかに割り当てられる。すなわち、(i) イニシエータは、通信経路の仲裁（アビトレーション）を行い、ターゲットを選択することができる。(ii) ターゲットは、コマンド、データ、ステータス、またはその他の情報のイニシエータへの転送、若しくはイニシエータからの転送を要求することができる。(iii) 場合によっては、ターゲットが通信経路の仲裁（調停）を行い、トランザクションを継続するためにイニシエータを選択し直すことも可能である。

【0005】ファイバ・チャネル・プロトコルと共に動作可能なデバイスでは、イニシエータ機能を有するデバイスのみが、当技術ではリンク・サービス要求(Link Service Request)または拡張リンク・サービス要求(Extended Link Service Request)として知られている要求を開始することができる。リンク・サービス・コマンドは、ファイバ・チャネル・イニシエータに、ノード発見、要求中止、および通信フレーム拒絶というようなタスクを実行する能力を与える。ファイバ・チャネル・ターゲットが開始できる唯一のリンク・サービス・コマンドは、コマンド/フレームの拒絶（「LS_RJT」）である。

【0006】一般に、単一のイニシエータFC環境では、イニシエータ・デバイスは、必要とされるリンク・サービス・コマンドを送り出し、それに応答してターゲットから送られてくるリンク・サービス承認（「LS_ACK」）フレームまたはリンク・サービス拒絶フレーム（「LS_RJT」）の受信を待機する。以降、これらのLS_ACKおよびLS_RJTフレームのことを、総称して、「応答」フレームと呼ぶことにする。一方、マルチ・イニシエータ環境(multi-initiator environment)では、イニシエータは、リンク・サービス・コマンドの受信側および送出側双方として動作する。これら二重の役割のために、かかるイニシエータは、応答フレームの受信側および送出側の双方として動作する。

【0007】

【発明が解決しようとする課題】イニシエータ間におけるこれら双方向伝送のために、マルチ・イニシエータFC環境においては、激しい混乱が発生する可能性が非常に高い。実際、イニシエータ側の混乱によって、実行可能な通信リンクを確立する役割を担っている初期化手順が停止(stall)し、それにより、マルチ・イニシエータ

環境において送信中断が発生してしまう。1つのチャネルまたはネットワーク通信システム内に多数のイニシエータを設けることは、概念的には処理能力レベルを高め、接続度(degree of connectivity)上昇を達成するであろうが、マルチ・イニシエータFC環境において上述のような中断が発生すると、通信リンクのダウン・タイムが高性能の最先端システムでは容認できないレベルにまで上昇してしまう可能性がある。

【0008】種々の単一イニシエータによるFC実施態様は存在しているが、上述した問題や欠陥に適切に対処し、以下に説明する本発明の利点および新規の特徴全てを有するマルチ・イニシエータFC通信システムは、未だ提供されていない。

【0009】

【課題を解決するための手段】本発明は、コンピュータ・システムにおいてファイバ・チャネル（FC）通信環境を管理しつつ制御する方法を提供することによって、先に確認した問題、および既存の技術のその他の欠点や欠陥を克服するものである。かかる環境は、複数のFCデバイスを含み、少なくともその内2つのFCデバイスが、イニシエータである。この管理および制御方法は、要求フレームに関連するタイプ情報要素を記憶した後に、イニシエータの各々から、複数のFCデバイスの各々に要求フレームを送信するステップと、受信した要求フレームに応答して、応答フレームのタイプ情報要素を記憶せずに、少なくとも2つのイニシエータの各々から、応答フレームを送出するステップとを含んでいる。

【0010】本発明は、更に、コンピュータ・システムにおいて、多数のイニシエータを含む複数のファイバ・チャネル（FC）デバイスを備えたFC通信環境を管理しつつ制御するシステムを提供する。このシステムは、要求フレームに関連するタイプ情報要素を記憶した後に、イニシエータの各々から、複数のFCデバイスの各々に前記要求フレームを送信する手段と、受信した要求フレームに応答して、応答フレームのタイプ情報要素を記憶せずに、イニシエータの各々から、応答フレームを送出する手段とから構成されている。本発明のより完全な理解は、添付図面と関連付けて以下の詳細な説明を参照することによって得ることができよう。

【0011】

【発明の実施の形態】これより図面を参照して説明するが、図面全体にわたって同様または類似する要素には同一の参照番号を付している。また、種々の要素は必ずしも同一の拡縮率で描かれている訳ではない。

【0012】図1には、本発明を実施可能な、一例のコンピュータ・システム200のブロック図が示されている。当業者には明らかであろうが、コンピュータ・システム200は、ここではその機能的なブロックとして表されている。オペレーティング・システム（「OS」）210が、コンピュータ・システム200内に設けら

れ、それに関連する情報の流れを制御する。OS210は、ディスク・オペレーティング・システム（「DOS : Disk Operating System」）、あるいは、コンピュータ・システム200をネットワーク環境内に配置するか否かに応じて、例えば、Windows NT（登録商標）またはNetWare（登録商標）のような、適切なネットワーク・オペレーティング・システム（「NOS : Network Operating System」）とすることができる。

【0013】更に、OS210は、例えばSCSI規格のような、少なくとも1つの従来からのチャネル通信インターフェースと共に動作可能である。例示のOS210には、更に、例えば、Internet Protocol（「IP」）のような、従来のネットワーク通信プロトコルとの相互動作を可能にするような機能構造を設けることも可能である。

【0014】引き続き図1を参照すると、例示のOS210は、上位通信経路230を通じて、OS互換チャネルまたはネットワーク通信プロトコル／インターフェース215と通信を行う。例示のコンピュータ・システム200の機能ブロック図において、上位通信経路230は、例えば、SCSIプロトコル・ドライバまたはIPプロトコル・ドライバといった、通信プロトコル・ドライバのようなOSソフトウェア構造を含んでいる。例示のOS210およびOS互換インターフェース／プロトコル215は、コンピュータ・システム200において一体となっており、これ以降、OS環境250と呼ぶこととする。参考番号220は、ファイバ・チャネル（「FC」）環境を示し、以下で更に詳しく説明する公知のファイバ・チャネル・プロトコル（「FCP」）アーキテクチャに加えて、本発明の教示にしたがって動作可能な複数のFCデバイスを含んでいる。

【0015】更に図1を参照すると、例えば、OS210を含む殆どのオペレーティング・システムには、FC環境220内に配置されているデバイスと「直接」通信する機能が備えられていないことが明らかであろう。したがって、例示のコンピュータ・システム200において、FC環境220の利点を奏すように構成し利用するため、FC環境220およびOS互換通信インターフェース215の間に、リンク経路225を設けている。

【0016】次に図2を参照すると、図2には、FCPスタック・アーキテクチャ300の模式図が示されている。容易に認めることができようが、FCPアーキテクチャは、オープン・システム・インターフェース（「OSI」）スタックと全く同様に、プロトコル・レイヤの階層的集合として構成されている。FCスタックの下位3レイヤ（FC-0～FC-2で示すレイヤ310～レイヤ320）が、ファイバ・チャネル物理規格（「FC-PH : Fiber Channel Physical Standard」）として知られている物理規格を形成する。この規格は、例え

ば、FC環境220（図1に示した）を含む、ファイバ・チャネル環境の物理的伝送特性全てを規定するものである。残りのレイヤ（FC-3で示すレイヤ325、およびFC-4で示すレイヤ330）は、他のネットワーク・プロトコルおよびアプリケーションとのインターフェースを処理する。イーサネットやトークン・リングのような既存のローカル・エリア・ネットワーク（「LAN : Local Area Network」）とは異なり、FCは、スタック300の種々の機能レイヤを、物理的に分離して保持している。この物理的な分離によって、いくつかのスタック機能をハードウェアで実施し、その他の機能をソフトウェアまたはファームウェアで実施することが可能となることは明らかであろう。

【0017】レイヤ310、即ちFC-0は、FCアーキテクチャの最下位の機能レイヤであり、FC環境220（図1に示す）に配置された複数のFCデバイス間のリンク接続の物理的特性を記述する。FC-0は、133Mbaud（ポート）の基準速度、最も一般的に使用されている速度である266Mbaud、ならびに531Mbaudおよび1.062Gbaudに対応する。しかしながら、リンク接続を確立し維持する際に伴うオーバーヘッドのために、実際のデータ・スループットはいくらか低く、133Mbaudでは100Mbit/s、266Mbaudでは200Mbit/s、531Mbaudでは400Mbit/s、そして1.062Gbaudでは800Mbit/sとなる。更に、FC-0は、單一モードまたはマルチモードの光ファイバ・ケーブル、同軸ケーブル、およびシールド・ツイスト線対（「STP : shielded twisted pair」）媒体を含む、広範囲の物理的ケーブルに対応する。これらのケーブル要素の各々は、ある範囲のデータ速度に対応し、特定の距離制限を賦課するが、FCは、図2に示したFC環境220のような同一FC環境内において、これらの全てを混合することができる。例えば、單一モードn°光ファイバを10kmまでの距離に使用することができ、200Mbit/sのマルチモード・ファイバを2kmまでの距離に使用することができ、100Mbit/sに対応するSTPを50メートルまでの距離に使用するようにしてよい。

【0018】レイヤ315、すなわちFC-1は、直列エンコード（符号化）およびデコード（複合化）規則、特殊特性、ならびにエラー制御を含む、伝送プロトコルを定義する。FC-1は、8B/10Bブロック・コードを用い、8データ・ビット毎に、ディスパリティ・コントロール（disparity control）として知られている、エラー検出および訂正のための2つの余分なビットを付け加え、10ビット群として送信する。8B/10B方式は、十分なエラー検出および訂正機能を与えるので、低コストのトランシーバを用いることができ、タイミング復元方法を用いて、無線周波数干渉の危険性を低下さ

せると共に、均衡の取れた同期送信を確保することができる。

【0019】FC-PHの第3レイヤ320、即ちFC-2は、FCデバイス間でデータがどのように転送されるかについて記述し、各FCデバイスは「ノード」に配置され、フレーム・フォーマット、フレーム・シーケンス、通信プロトコル、およびサービス・クラスの定義を含む。ファイバ・チャネルにおけるデータ送信の基本単位は、可変サイズのフレームである。フレームの長さは、2,148バイトまでとることができ、2,048バイトまでのペイロード、フレーミング(framing)、送信元(ソース)および宛先ポート・アドレッシング、サービス・タイプ、ならびにエラー検出情報を与える36バイトのオーバーヘッド、ならびにユーザ・データ、即ち、ペイロードについてのその他の種々雑多な情報のための64バイトの付加的な任意のオーバーヘッドから成る。単一の上位レイヤ(即ち、スタック300における上位レイヤ)のプロトコル・メッセージは、フレームのペイロード容量よりも大きくすることができ、その場合、メッセージは、シーケンスと呼ばれる、一連の関連付けられたフレームに分割される。

【0020】引き続き図2を参照すると、FC-2レイヤは、FCPスタック300の主要な「ワーカホース(working horse)」であり、FC-0レイヤを通じた送信のために、上位レイヤ(レイヤ325, 330)からのデータをフレーム化して、連続的に送り出す。また、FC-0レイヤからの送信を受け入れ、上位レイヤ325, 330による使用のために、必要であれば、それらを再度フレーム化し、そして再度連続的に送り出す。2つのノード間の全二重送信経路を定義することに加え、FC-2レイヤは、フロー・コントロール(制御)、リンク管理、バッファ・メモリ管理、ならびにエラー検出および訂正を含む、必須のトラフィック管理機能も提供する。

【0021】FCPスタック300の重要な特徴の1つは、FC-2レイヤが4つのサービス・クラスを定義し、種々の通信の要望に答えることである。クラス1サービスは、専用の無中断通信リンクである、ハード・ワイヤ、即ち、回路切替型接続を定義する。このサービスは、その期間の間、接続の排他的使用(時として「利己的接続」と呼ばれる)を提供する。クラス1サービスは、2台のスーパーコンピュータ間のように、時間に厳しく「バーストを発生させない」専用リンクのために設計されたものである。クラス2サービスは、配信を保証し、トラフィックの受信を確認する、無接続フレーム交換送信である。フレーム・リレーのような従来のパケット交換技術と同様、クラス2の交換は、接続上ではなく、FCデータ・フレーム上で行われる。ノード間には専用接続は確立されず、各フレームは、使用可能なルート上でその宛先まで送られる。クラス2トラフィックにおいて輻輳(congestion)が発生した場合、その宛先に

首尾良く到達するまで、フレームを再送信する。クラス3サービスは、1対多の無接続フレーム交換サービスを定義し、配信保証や確認機構がないことを除いて、クラス2サービスと同様である。クラス3の送信は、確認を待たないので、クラス2の送信よりも高速である。しかしながら、送信がその宛先に到達しない場合、クラス3のサービスは再送信を行わない。このサービスは、承認を待つことができないがクラス1サービスを保証する程に間に厳しくない、リアル・タイム・プロードキャストに最も多く使用されている。また、フレームの損失が許されるアプリケーションにも使用されている。クラス4サービスは、接続を基本とするサービスであり、部分的帯域(fractional bandwidth)の保証およびレイテンシ・レベルの保証を提供する。

【0022】FC-3レイヤ、即ち、レイヤ325は、FC-PHレベルより高い上位レイヤ・プロトコルの通信サービスの共通集合を提供する。これらの追加サービスは、例えば、マルチキャスト(multicast)およびブロードキャストのデータ配信機構、1つ以上のターゲット・ノードが所与のイニシエータ・ノードに応答可能な「ハント(hunt)」群、ならびに多数の上位レイヤ・プロトコルおよびFC-PHの多重化を含むことができる。

【0023】FCPスタック300の最上位レイヤであるレイヤ330は、FC-4レイヤである。これは、例えば、図2に示したFC環境220のようなFCインターフラストラクチャ上で動作可能な上位レイヤの用途を定義する。FC-4レイヤは、既存のチャネルおよびネットワーク・プロトコルを、ファイバ・チャネル上で、これらのプロトコルを変更することなく利用する方法を提供する。したがって、FC-4レイヤは、プロトコル収束レイヤ(protocol convergence layer)のように作用するので、FCノードは、上位レイヤのチャネルまたはネットワーク・プロトコルが要求する正確な下位レイヤ搬送サービスを提供するよう見える。この収束機能は、FC-4レイヤが、バッファ記憶、同期、またはデータの優先順序付けのような、追加のサービスを提供することを、要求する。FC-4の機能は、図1に示した例示のコンピュータ・システム200の、FC環境220およびOS互換インターフェース215間に配されたリンク経路225に含まれる。

【0024】引き続き図2を参照すると、種々のFC-4レベル・マッピングが、多数の上位レイヤ・チャネルおよびネットワーク通信プロトコルのために指定されている。その中には、インテリジェント周辺インターフェース(「IPI」)、SCSI、高性能並列インターフェース(「HIPPI : High-Performance Parallel Interface」)、单一バイト・コマンド・コード・セット(「SBCCS : SingleByte Command Code Set」)、論理リンク制御(「LLC : Logical Link Control」)、IP、および非同期転送モード(「ATM : Asynchronous

us Transfer Mode」)アダプテーション・レイヤ(「A L : Adaptation Layer」)が含まれる。

【0025】ファイバ・チャネル・プロトコルと共に動作可能なデバイスは、それらがイニシエータであるか、あるいはターゲットであるかには無関係に、FCP STACK 300の中間レイヤのいくつかの機能を具体化するコントローラ(以降「FCコントローラ」と呼ぶ)を通常含んでいる。例えば、現在のFCコントローラは、一般に、レイヤ315、320(FC-1、FC-2)の機能を具体化する。一方、図1に示した例示コンピュータ・システム200のようなホスト・コンピュータは、上位レイヤ(FC-3、FC-4)を担当する。例えば、ギガバイト・リンク・モジュール(「GLM : Gigabit Link Module」)のような物理的リンク・モジュール(「PLM : Physical Link Module」)が、最下位レイヤ310(FC-0)を実現する。

【0026】次に図3のA～Cを参照すると、3種類のトポロジ構成例が、全体的に490、491、492でそれぞれ示されており、その中にFCノードを配置することができる。ノードとは、ULP、FC-3、およびFC-2機能のいくつかを処理する能力を有する実体、システム、またはデバイスのことである。ノードは、1つ以上のポートを含むことができ、これらは一般的にノード・ポートすなわちN_PORTとして知られている。N_PORTは、FC-PHを支援するノード内のハードウエア実体である。これは、送信元(即ち、イニシエータ)、応答側(即ち、ターゲット)、または双方として動作することができる。以降、ノード、デバイス、およびポートという用語は、本発明の目的のために、相互交換可能に用いることとする。

【0027】図3のAの490は2点間トポロジを示し、双方通信リンク410A、410Bを利用して、任意の2つのFCノード(ここではN_PORT 400A、400Bで示す)の間に全二重送信経路を提供する。この接続トポロジは、介在するデバイス/ノードがないので、可能な最大帯域および最低のレイテンシを提供する。

【0028】図3のCの参考番号492は切替ファイバ・トポロジであり、各FCデバイス即ちノード(N_PORT)が、ファブリック、例えば、ファブリック430の一部であるF_PORTに接続され、このファブリック上の他のいずれかの接続への無遮断データ経路を受ける。F_PORTとは、物理的に他のノードに接続するためのファブリックのアクセス点である。ファブリック430は、スイッチまたは一連のスイッチとすればよく、ノード間のルーティング、エラー検出および訂正、ならびにフロー制御を担当する。ファブリック430の動作は、上位レイヤの通信プロトコルとは独立しており、専ら距離には無関係であり、いずれの技術を基準にしてもよい。

【0029】通信経路、例えば、経路439は、ノード、N_PORT 440、およびファブリックのポート(F_PORT)436間に双方向接続を提供する。切替ファブリック・トポロジ492は、3種類のFCトポロジ全ての内、最大の接続能力および総計スループットを与える。切替ファブリック・トポロジ492は、多数のシステムを相互接続し、高帯域に対する要求を支持し、異なる速度の接続間でデータ速度を一致させ、異なるケーブル要素の整合を取る機能を提供する。

【0030】図3のBの491は、FC-AL規格と呼ばれる接続規格に準拠し、仲裁ループ(「AL」)として当技術では知られている、ループ・トポロジを示している。ループ・トポロジ491は、例えば、L_PORT 420A～420Dのような複数のFCデバイス即ちノード(ループ・ポート即ちL_PORTとして示す)を、單一方向リンク、例えば、リンク425A～425Dを通じて相互接続する。したがって、この接続構成は、各デバイスがループ・トポロジ491を、送出側および受信側において二点間接続として使用することを可能にするものである。その際、それらの間にどのようなデバイスが介在しても無関係であり、それらは単に「リピータ(中継器)」として作用するに過ぎない。

【0031】仲裁ループ491は、ハブまたはスイッチを必要とせずに、多数のデバイスを取り付ける低コストの手段を提供する。図3のBには4つのL_PORTのみを示すが、このループは127個までのL_PORTの共有帯域を提供する。各L_PORTは、他のポートと通信する必要がある場合に、ループの使用を要求する。ループが未使用状態の場合、要求元のポートは宛先ポートとの双方向接続を設定する。ループ・プロトコルによって、L_PORTは、連続的に送信媒體に対するアクセスのアービトリエーション(仲裁)を行い、他のL_PORTに送信することが可能となる。フェアネス・アルゴリズム(fairness algorithm)によって、ループへのアクセスが阻止されるL_PORTが生じないことを保証する。一旦接続が確立されると、次に、2つのL_PORT間のトラフィックに適したいずれかのサービス・クラスで、配信が可能となる。

【0032】当技術では公知のように、一度に通信可能なL_PORTは1対のみである。これらのL_PORTがループの制御を放棄した場合、他の2つのL_PORT間の二点間接続を確立することができる。更に、ループ全体は、FL_PORTとして知られているものを通じてFC交換ファブリック・ポートに、またはNL_PORTを通じて直接单一のホスト・システムに、交互に取り付けることも可能である。本発明の現時点における好適な例示実施例は、ループ・トポロジ491のようなFC-ALトポロジを含み、このノード構成の全体的な動作について、以下で更に詳細に説明する。

【0033】FC-AL規格は、各FCデバイスが、ル

ープ初期化プロセスにおいて、仲裁ループ物理アドレス(AL_PA : Arbitrated Loop Physical Address)について取り決めることを許しており、これは知られていることである。仲裁ループに参加している間、FCデバイスは、ループ・トランザクションを開始する前に、互いにログインしなければならない。ログイン手順は、全ての通信ノードが実行し、サービス・パラメータや共通動作環境を確立するための初期手順である。サービス・パラメータの例の1つに、「クレジット」限度がある。これは、受信側ポートにおいてバッファ記憶の溢れ($overrun$)を発生させることなく、ポートが送信可能な未決フレームの最大数を表す。クレジットとは、各送信元ポート送出可能なフレーム数を限定することによって、リンクのトラフィックを絞るフロー制御機構であることは自明であろう。従来のFCコントローラでは、バッファ対バッファ・クレジット(「 BB_Credit : buffer-to-buffer credit 」)および端末(エンド)対端末クレジット(「 EE_Credit : end-to-end credit 」)という2種類のクレジットが一般に用いられている。

【0034】あるデバイスが他のデバイスにログインしない場合、ログインするまで、当該デバイスから受信したあらゆるフレームをディスカード(破棄)する。イニシエータまたはドライバがそれが通信しているターゲット・デバイスを管理することができなければならないので、イニシエータは、当該ターゲット・デバイスに対するFC-特定識別トリプレット($identity triplet$)を追跡する。このFC特定IDトリプレットは、ターゲットのノード名、そのポート名、およびその AL_PA から成る。 AL_PA はループ・リセット時に動的に割り当てられるが、ノード名およびポート名は、装置の一意のワールド・ワイド名($World_Wide_Name$)から形成される。

【0035】リセット時に、デバイスが仲裁ループ上に上った場合、デバイスは、ループ初期化ステップにおいて3つの方法の1つでデバイスの AL_PA を環境設定する。ソフト・アドレス方式($Soft Address scheme$)では、デバイスは、どの AL_PA がそれに割り当てられるかには注意しない。むしろ、最初の未使用 AL_PA で入手可能なものを単純に受け入れる。好適アドレス方式($Preferred Address scheme$)では、FCデバイスは、特定の AL_PA が割り当てられることを望む。しかしながら、何らかの理由で所望の AL_PA が利用できない場合、未使用でありかつ入手不可能な AL_PA を受け入れる。例えば、OSのロードに続く「全体的な」システムの初期化時に、デバイスに特定の AL_PA が最初に割り当てられた後、このデバイスは、後続のループ・リセット時に、当該 AL_PA を要求し続ける。しかしながら、一旦このデバイスが仲裁ループから外れたなら、その AL_PA を「選択」する能力は失わ

れ、入手可能な最初の未使用 AL_PA を受け入れことには甘んじなければならない。

【0036】第3に、ハード・アドレス方式($Hard Address scheme$)では、FCデバイスは、特定の AL_PA でのみ動作することができる。 AL_AP の環境設定を扱うFC-AL規格におけるループ初期化プロトコル(「 LIP 」)によれば、このアドレス構成方法は、最初の2つの方法、即ち、ソフト・アドレス方式および好適アドレス方式に勝るものである。

【0037】イニシエータFCデバイスは、全ての AL_PA 割り当て問題が解決した後に、リンク・サービス・コマンド/フレームを開始することができる。リンク・サービス・フレームは、「要求」フレームおよび「応答」フレームの双方を含む。要求フレームは、受信側デバイスに、応答フレームを返送するように要求するリンク・サービス・フレームであり、例えば、ログイン・リンク・サービス・フレーム(「 $PLOGI$: Login Link Service Frames 」)、ログアウト・フレーム(「 $PLLOGO$: Logout Frames 」)、N_ポートサービス・パラメータ発見フレーム(「 $PDISC$: Discover N_Port Service Parameters 」)、アドレス発見フレーム(「 $ADISC$: Discover Address Frames 」)、プロセス・ログイン・フレーム(「 $PRLLI$: Process Login Frames 」)、プロセス・ログアウト・フレーム(「 $PRLO$: Process Logout Frames 」)、および復位復元・資格フレーム(「 RRQ : Reinstate Recovery Qualifier Frame 」)を含んでいる。

【0038】单一イニシエータ環境では、イニシエータ・デバイスは、必要に応じて、リンク・サービス・フレームを出し、それに応答して、承認フレーム(LS_ACC)または拒絶フレーム(LS_RJT)を期待する。更に、イニシエータ・デバイスは、未決リンク・サービス・アレイと呼ばれる記憶アレイ内に、各リンク・サービス・フレームに対するタイプ情報(以降、「タイプ情報要素」と呼ぶ)を記憶するこにより、送出されるリンク・サービス・フレームのタイプを追跡する。この未決リンク・サービス・アレイは、複数の記憶位置から成り、その各々が受信側デバイスの AL_PA に対応する。更に、典型的な実施例では、全てのリンク・サービス・フレーム・タイプは、それらが送出される際に、各受信側に記憶される。

【0039】イニシエータ・デバイスによる初期ポート発見プロセスは、それが1つ以上のイニシエータを含んでいるか否かには無関係に、FC-AL環境では二段階プロセスである。最初に、イニシエータが既に受信側デバイスにログインしている場合、 $PDISC$ フレームが送信される。その他の場合、 $PLOGI$ フレームが送信される。第2に、 $PLOGI$ フレームに応答して LS_ACC フレームが返送され受信された場合、イニシエータは、当該応答側に $PRLLI$ フレームを送る。一方、 P

DISCフレームに応答して、LS_ACCフレームが返送され受信された場合、他のフレームを当該応答側に送る必要はない。

【0040】マルチ・イニシエータ環境では、イニシエータがそれ自体のPLOGI要求フレームに応答して LS_ACCまたはLS_RJTフレームを期待している場合、PLOGIフレームがイニシエータに送られる。2カ所のイニシエータが互いに通信する必要がある場合、これらは双方ともログイン・プロトコルを継続しなければならない。何らかの理由で、一方のイニシエータが他方との通信を支援しない場合、送出側から受信するPLOGIフレームを単に無視すればよい。即ち、LS_RJTフレームを送出側に送ればよい。しかしながら、このようにすると、通信システムの性能を激しく低下させると共に、それに関連するスループットに負の影響を与えてしまうことは明らかである。

【0041】次に図4を参照すると、本発明の教示による、2つのイニシエータ・デバイス、即ち、イニシエータ510およびイニシエータ515、ならびにターゲット520から成る仲裁ループ500の例が示されている。イニシエータ510は、そのノード名称であるNODE_Aを用いてAL_PA1を処理する。イニシエータ515はそのノード名称であるNODE_Bを有するAL_PA2に配置される。更に続けると、ターゲット520はNODE_Cを有するAL_PA5に配置される。この図ではポート名を具体的に示していないが、それらは、デバイスの各々に関連するIDトリップレットに対して存在することは理解されよう。

【0042】イニシエータ510は、未決リンク・サービス（「OLS : outstanding_link_services」）アレイ512と呼ばれる記憶アレイを備えており、一方このアレイ512は、それぞれ、AL_PA2（イニシエータ515に対して）およびAL_PA5（ターゲット520に対して）に送られる、あらゆるリンク・サービス・フレームにも対応するタイプ情報要素を格納する位置511A、511Bを含む。同様に、イニシエータ515も、位置516A（AL_PA1、即ち、イニシエータ510のため）および516B（AL_PA5、即ち、ターゲット520のため）を有するOLSアレイ517を備えている。

【0043】首尾良くループ初期化プロセスを完了した場合、イニシエータ510はPLOGIフレームをイニシエータ515およびターゲット520の各々に送出する。イニシエータ510は、これらのPLOGIフレームに対応するタイプ情報要素を、そのOLSアレイ512内の位置511A、511Bに記憶する。同様に、イニシエータ515は、PLOGIをイニシエータ510およびターゲット520に送出し、対応するタイプ情報要素をそのOLSアレイ517内の位置516A、516Bに記憶する。

【0044】イニシエータ510がイニシエータ515からPLOGIフレームを受信した場合、例えば、LS_ACCフレームのような応答フレームをイニシエータ515に送出する。本発明の教示によれば、イニシエータ510は、位置511Aに対応するタイプ情報要素を記憶することなく、単に応答フレームを送出する。したがって、位置511Aは、イニシエータ510によってイニシエータ515に送出されたPLOGIフレームに対応する、最初のタイプ情報要素を保持する。このため、応答フレーム（例えば、LS_ACC）がイニシエータ515からイニシエータ510に返送されたとき、イニシエータ510は、受信した応答フレームは、事实上、イニシエータ515に送出されたそれ自体のPLOGIフレームに応答するものであることを、素早く判断することができる。

【0045】例えば、イニシエータ515がイニシエータ510からのPLOGIフレームに応答するよりも前に、イニシエータ515からのPLOGIフレームがイニシエータ510に到達し、イニシエータ510がそのLS_ACCによって応答し、そのタイプ情報要素を位置511Aに記憶した場合、イニシエータ515からのLS_ACCフレームを受信する際に、イニシエータ510はログイン・プロセスに素早く進むことができる。何故なら、イニシエータ515からLS_ACCフレームを受信した後、受信したLS_ACCのペイロードを分析し、「見失わない」ようにしなければならないからである。更に、LS_ACCフレームに対するタイプ情報要素がOLSアレイ511に記憶されるときに返送されたLS_ACCを受信する際、イニシエータ510は中間状態に入ることによって、ログイン・プロセスが止まってしまう場合がある。しかしながら、本発明の教示にしたがって多数のイニシエータを設けることにより、かかるループの中止を大幅に抑え最少化する。

【0046】図5は、例えば、先に述べた仲裁ループ500のようなファイバ・チャネル環境における多数のイニシエータを制御する、現時点における好適な方法のフロー・チャートを示している。ステップ601においてループ初期化を完了したときに、まず、イニシエータは、発見された有効なAL_PA全てに送信される、適切な要求フレームに対するタイプ情報要素を記憶する。このプロセスはステップ605に示されている。続いて、ステップ610に示すように、適切な最初の即ち第1の要求フレームを送信する。他のイニシエータ・デバイスから要求フレーム（第2の要求フレーム）を受信した場合、そのタイプ情報要素を記憶することなく、適切な応答フレームを返送する（ステップ615）。引き続き図5を参照すると、適切な応答フレームをイニシエータから受信した場合、受信したイニシエータは、その内容を操作することなく、この応答フレームを適切に処理する（ステップ620）。かかる処理は、受信した情報

の読み取り、質問等を伴う場合があるが、受信した応答フレームに関連するペイロードの分析を必要としないことが好ましい。

【0047】以上の説明から、本発明により、FC環境において多数のイニシエータの制御および管理を行う画期的な機構を提供することによって、従来技術の問題を首尾良く解決することができるることは、当業者に明らかであろう。本発明のいくつかの実施例のみを添付図面に示し前述の詳細な説明に記載したが、本発明は開示した実施例に限定される訳ではなく、特許請求の範囲に記載しそれによって規定される本発明の精神から逸脱するところなく、多数の再構成、変更および交換が可能である。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明を実施可能な、コンピュータ・システムの一例を示すブロック図である。

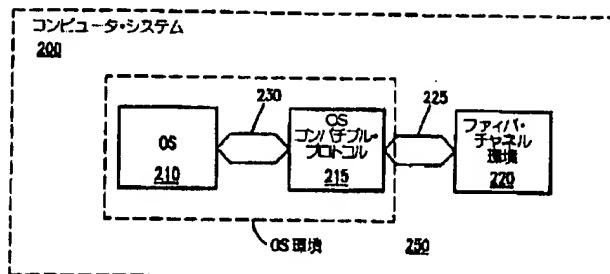
【図2】ファイバ・チャネル(FC)プロトコル・スタックを示す模式図である。

【図3】ファイバ・チャネル・ノードに使用可能な3種類のトポロジ構成を示すブロック図である。

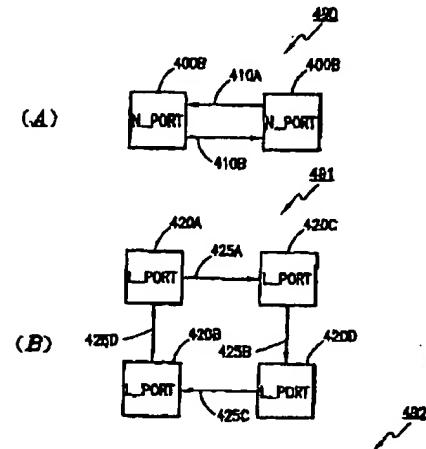
【図4】本発明による、多数のイニシエータを有する仲裁ループの代表的実施例を示す図である。

【図5】本発明にしたがって、マルチ・イニシエータの仲裁ループを制御する方法を示すフロー・チャートである。

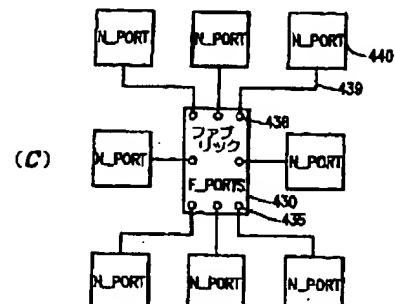
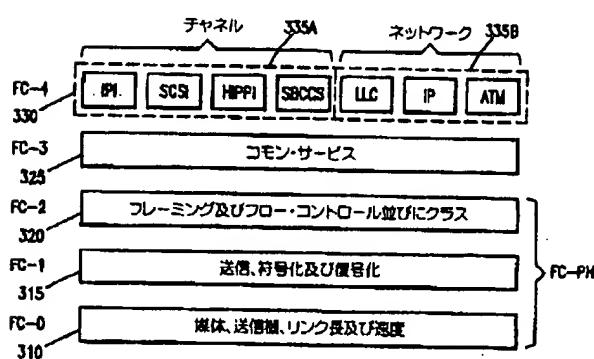
【図1】



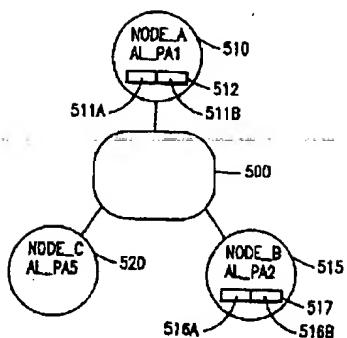
【図3】



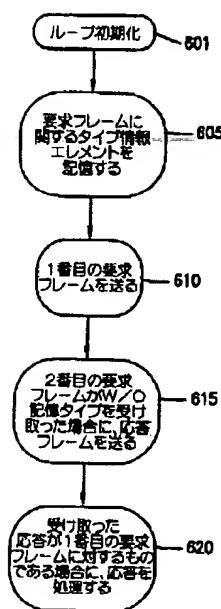
【図2】



【図4】



【図5】



フロントページの続き

(71)出願人 591030868
 20555 State Highway
 249, Houston, Texas
 77070, United States of America